

日本医学会連合 男女共同参画等検討委員会

【担当副会長】

岸 玲子

北海道大学環境健康科学研究教育センター 特別招聘教授・名誉教授

【担当理事】

小西 郁生

国立病院機構京都医療センター 院長

【委員長】

名越 澄子

埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 教授

【副委員長】

中村 清吾

昭和大学医学部外科学講座 乳腺外科学部門 教授

【幹事】

野原 理子

東京家政大学 家政学部 栄養学科(公衆衛生学) 准教授

野村 恭子

秋田大学大学院医学系研究科 医学専攻 社会環境医学系 教授

細谷 紀子

東京大学大学院医学系研究科ゲノム医学講座 特任准教授

【委員】

苅田 香苗

杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室 教授

北野 尚美

和歌山県立医科大学地域・国際貢献推進本部地域医療支援センター・

医学部公衆衛生学講座(併任) 講師

蓮沼 直子

秋田大学医学部総合地域医療推進学講座 准教授

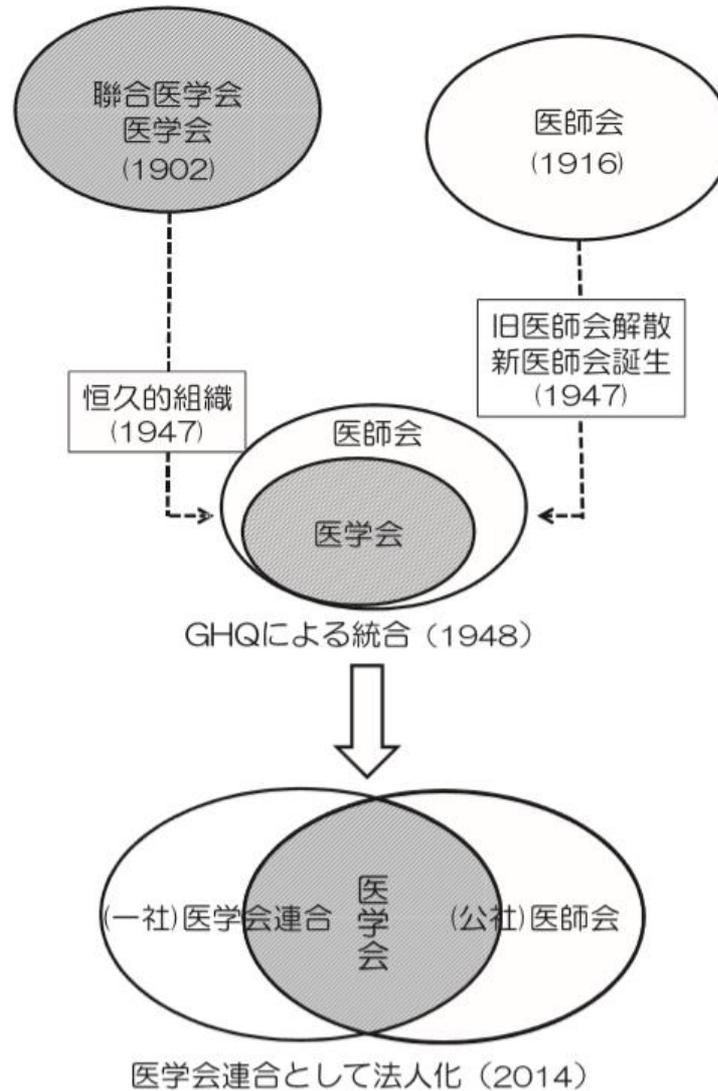


図1 日本医学会の変遷

日本医学会連合 129加盟学会

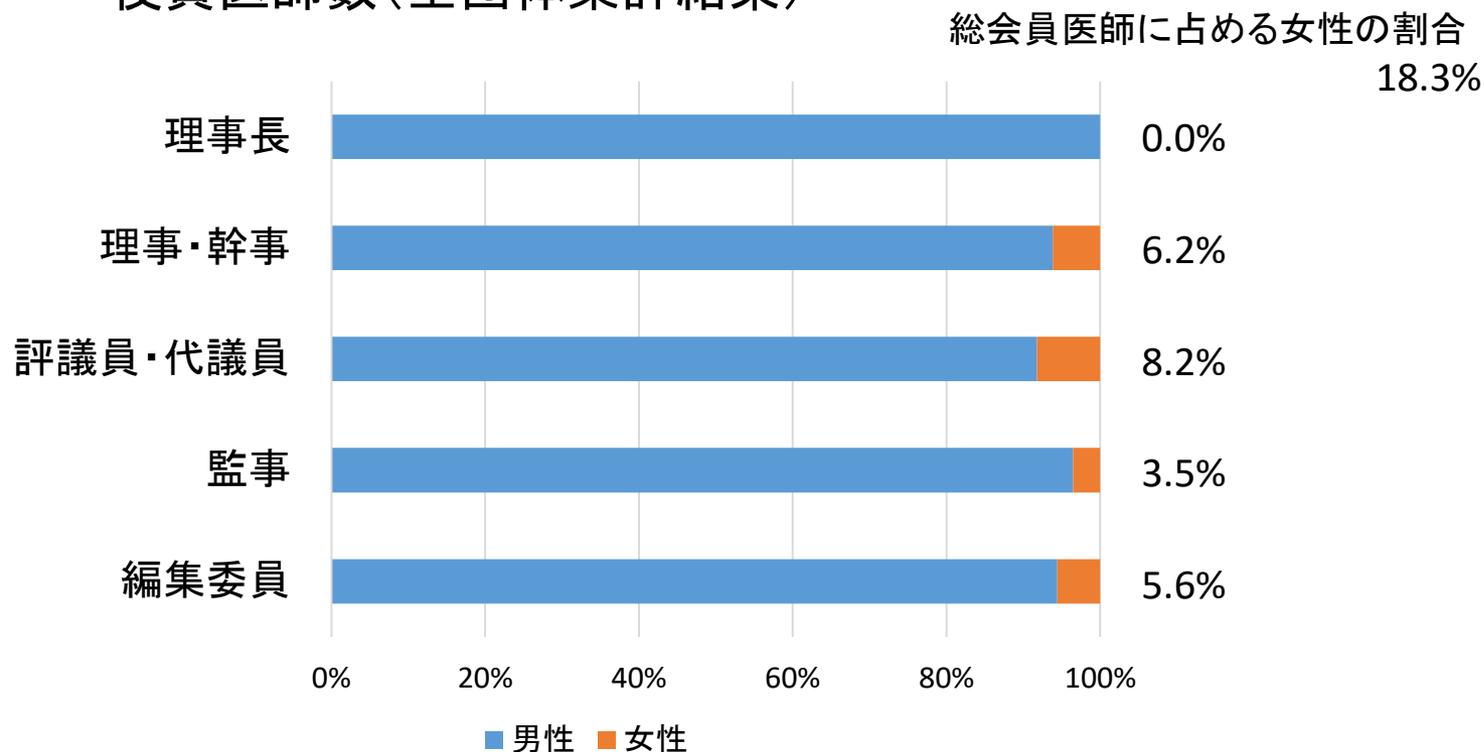
基礎部会: 14学会
 社会部会: 19学会
 臨床部会: 96学会

(門田守人 日本外科学会雑誌 119:423, 2018)

「男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援方策に関する調査」

加盟学会中106団体(回収率82%)

役員医師数(全団体集計結果)





お知らせ

会長挨拶

連合について

加盟学会（社員）名簿

加盟申請について

活動報告

加盟学会へ

活動報告

HOME > 活動報告 > 医学部入試における機会平等と医学系分野での女性の活躍推進について（声明）

2018年9月14日

医学部入試における機会平等と医学系分野での女性の活躍推進について（声明）

一般社団法人日本医学会連合
会長 門田 守人

一般社団法人日本医学会連合は、基礎部会14学会、社会部会19学会、臨床部会96学会の計129加盟学会からなる日本の医学界を代表する学術団体であり、「医学に関する科学及び技術の研究促進を図り、医学研究者の倫理行動規範を守り、わが国の医学及び医療の水準の向上に寄与すること」を目的として掲げています。

この立場から、日本医学会連合は、学校法人東京医科大学が医学科の一般入試において女子および多年浪人受験生に得点調整を行っていたことを、教育の機会均等と公正性を著しく損ない、公平な受験ができる信じながら医学の道を志して準備を積み重ねた受験生の努力を踏みにじり、多様な背景を持つ人々が大学で学び、医学・医療分野で活躍するチャンスを入口から奪う行為として容認することができません。現在、他の医学部・医科大学における入試に関しても文部科学省が調査を進めており、最終結果報告が待たれるところです。

さて、東京医科大学に設置された内部調査委員会は、女子受験生に一律に不利な得点調整が行われていた理由を「女性は年齢を重ねると医師としてのアクティビティが下がる」ためと報告しています。これは、妊娠・出産・育児という女性のライフステージと医師としてのキャリア形成の時期が重なり、両立が困難となるケースがあることを念頭に置いたものと考えます。しかしながら、一部の事例を一般化し、個人の熱意や能力を軽視することはでき